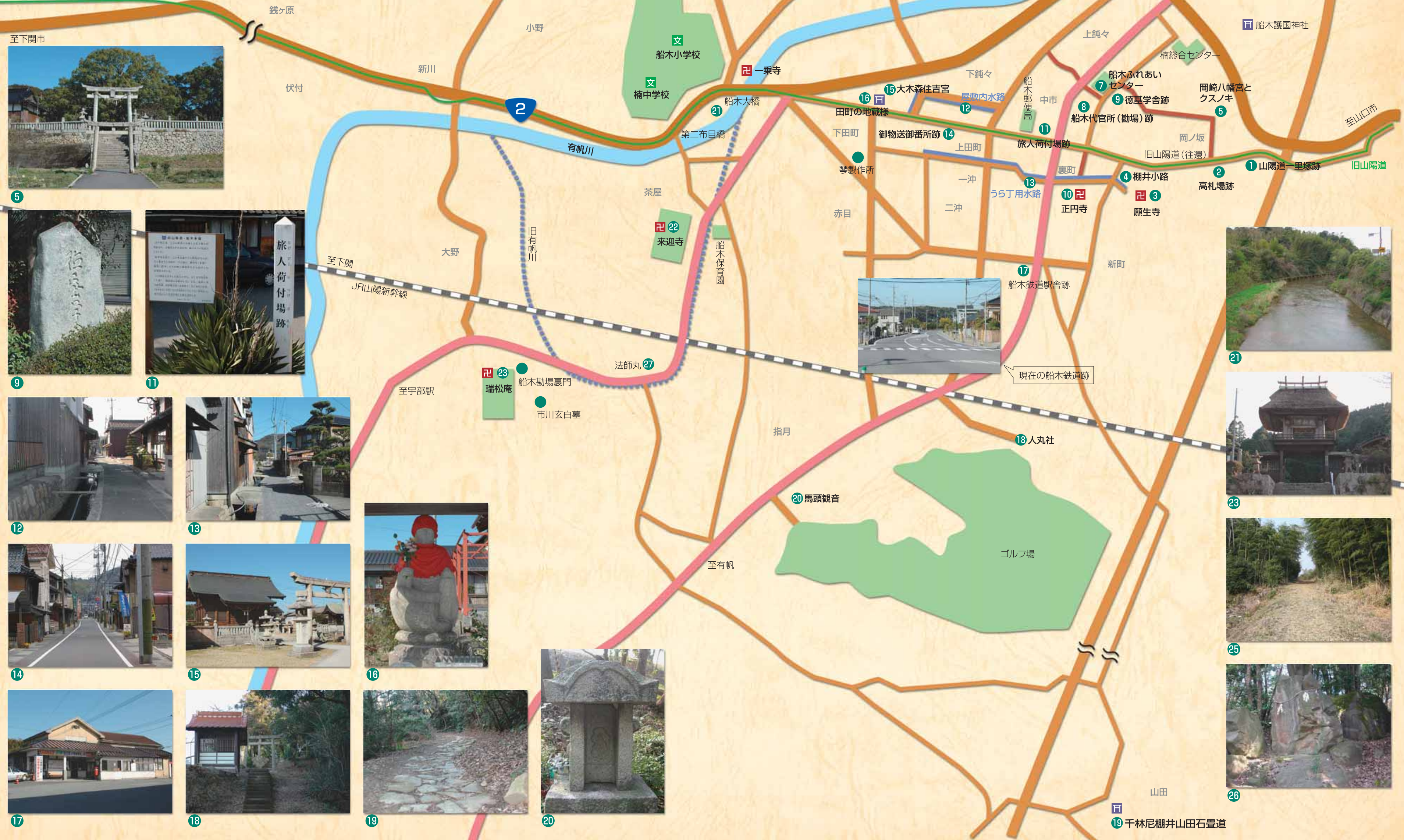
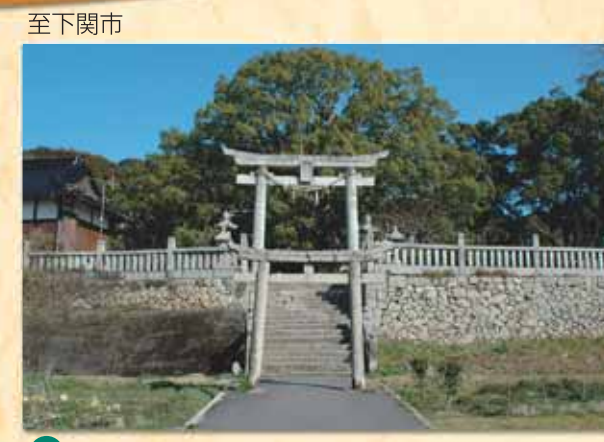


船木史跡マップ



黒岩権現 26

25 旧山陽道 24 逢坂観音堂



19 千林尼棚井山田石畳道

船木史跡マップ

船木は、江戸時代には「本宿」(ほんじゅく)として栄えました。「本宿」というのは、江戸への参勤交代の際に大名が宿泊する場所のことです。また、長州藩においては、防長両国を18の区域に分けて、それぞれの区域を「宰判」(さいはん)と呼び、中心地に代官所が設置されました。ここ船木にも代官所が置かれ、現在の宇部市と山陽小野田市の大部分を管轄しており、この地域の政治・経済の中心地として栄えました。現在の船木の街並は、こうした歴史背景から生まれました。街筋を歩くとあちこちに、当時の息吹を感じることができます。

① 山陽道一里塚跡

船木峠を下りて、市頭付近に「一里塚」があった。一里塚には、「赤間関より九里、安芸境小瀬川より二十七里」と書かれていた。明治10年(1877年)ころ撤去された。



② 高札場跡

岡崎八幡宮の南参道と山陽道との分岐点のすぐ近くに建てられていた。

③ 願生寺

山陽道沿いに位置する境内には、杉孫七郎の「聴雨筆塚」や寺子屋跡が残る。



④ 棚井小路

船木から厚東棚井村へ通じる路。往時は農産物や商品の流通路として栄えた。

⑤ 岡崎八幡宮とクスノキ

岡崎八幡宮は、古くから船木の鎮守として崇敬されてきた。社前のクスノキは、樹齢推定約700年で、宇部市指定天然記念物。船木のシンボルとして大切に守られている。クスノキ古樹にはシーボルトコギセルという巻貝(陸貝の一種)が生息しています。潮の干満で上下するといわれ、古来から海上安全のお守りとして珍重されてきた。

⑥ 地藏院跡五輪塔

茶臼山のふもとにあった「地藏院」にあった五輪塔。他にも地藏尊が残る。地藏院では、明応5年(1496年)に、豊後の大友政親主従が杉氏に捕らえられて自刃した。

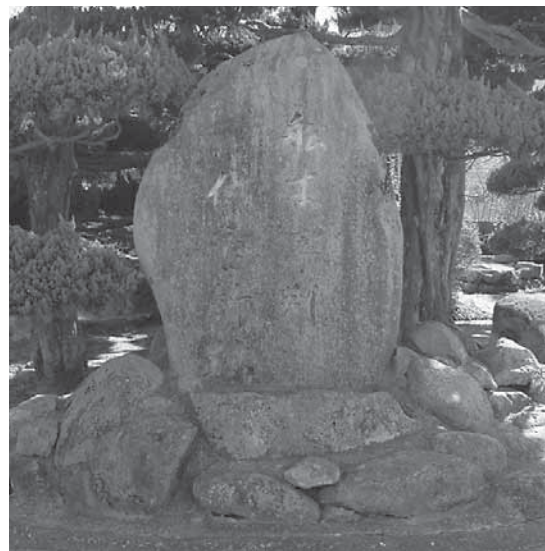
⑦ 船木ふれあいセンター

船木櫛の製造用具や船木勘場の鬼瓦など、船木の歴史を彩る資料が展示されている。入場は無料。



⑧ 船木代官所(勘場)跡

元禄2年(1689年)に建設された。春秋冬の三回出張してくる代官の役所を代官所、大庄屋や村役人が職務を行った役所を勘場と呼んだ。明治3年(1870年)になり、勘場は厚狭郡役所に転用された。大正15年(1926年)廃止されるまで船木は、旧厚狭郡全体の政治、経済、教育、文化の中心地として栄えました。



⑨ 徳基学舎跡

明治6年(1873年)、兼重慎一が有志とはかり勘場東側に県下ではじめての「女児小学」を設置し、毛利勅子を校長(教師)として開校。明治12年(1879年)に「徳基学舎」と改称され、その後明治42年(1909年)に厚狭へ移転し、厚狭高等学校として現在まで続いている。

⑩ 正円寺

元禄2年(1689年)、船木代官所(勘場)の建設等により船木市の整備に伴い、現在地へ移転した。船木宿に宿泊する大名等の人足の宿泊場所としても利用された。



⑪ 旅人荷付場跡

江戸時代には、「目代」という役人がいて、宿馬15頭などが用意され、役人や大名が通過する際には、動員された。明治に入ると船木村役場が建てられた。

⑫ 屋敷内水路

船木宿の北側を流れる水路。

⑬ うら丁用水路

船木宿の南側を流れる水路。

⑭ 御物送御番所跡

幕府の荷物の送り継ぎや、幕府役人や九州大名が通行する際の応接や人馬手配にあたった。平常は御蔵米の検査等にあたった。

⑮ 大木森住吉宮

嘉永4年(1852年)1650年大祭に改修が行われ、石造りのそり橋や高灯笼が作られた。海上航路安全の神を祀っているため、高灯笼は灯台を模している。クスノキの大樹があったことから巨木伝説から「船木」の地名発生となった所。

⑯ 田町の地藏様

享保8年(1723年)の造立。岡崎八幡宮にあったが、明治初年に現在地へ祀られたといわれている。明治の脱隊騒動で背部に鉄砲玉が打ち込まれたが、現在はふさがれている。

⑰ 船木駅

かつて宇部駅から吉部17.7kmを結んでいた船木鉄道の中心駅。鉄道営業は昭和36年(1961年)10月14日廃止。現在はバス停として利用されている。

⑱ 人丸社

柿本人麻呂を祀っていたものが、変容して「芸能神」として祀られたのが人丸社で、芸事修行の庶民から信仰対象とされた。

⑲ 千林尼棚井山田石畳道

千林尼が浄財を集めて厚東棚井から船木山田を結ぶ道を改修して石畳を敷いた。(宇部市指定史跡)慶応年間(1865~1868)に造成されたもので残存する唯一の貴重な「歴史の道」である。

⑳ 馬頭観音

明治25(1892)年に田町の有志により造立された。農耕や運送に馬が使用されていた頃に信仰されていた。

㉑ 有帆川

船木代官所最後の土木工事となった有帆川の流れを変えた工事。現在の船木大橋から沖田、指月、法師丸山を大きくまわり、大野を経て新川へ至る約1.2kmのルートであったが、約400mに短縮された。明治3(1872年)に完成した。

㉒ 来迎寺

大タブの木が葉を繁らせる趣のある寺。山門わきには千林尼が指月道を改修した際に寄付した人々への功德のため文化2年(1862年)8月造立した地藏尊が祀られている。明治17年(1884年)に指月道から現在地へ移された。



㉓ 瑞松庵

徳基学舎創立者の毛利勅子女史の招魂碑や、千林尼の鎮徳碑、戦国武将・内藤元盛一族の墓など多くの文化財がある。長門の国では深川の太寧寺とならぶ曹洞宗の古刹。庭園の見事な景勝池でもある。

㉔ 黒岩権現

ご神体は高さ3.6メートル、横幅2.4mほどの黒い巨岩で、江戸時代には「痘瘡(天然痘)」の守り神として信仰された。

㉕ 法師丸

棚井浄名寺の寺領目録。貞治3年(1364年)とある目録中に吉部村内の寺領に「一町船木法師丸」の記載がある。

㉖ 逢坂観音堂

安政4年(1857年)千林尼が堂主となった。安置されている木造十一面観音菩薩立像は、「乳もらい観音」として崇敬を集めてきた。現在では、毎年8月16日に御開帳が行われる。また、逢坂の地名は、二条院讃岐が和歌の修行に諸国を巡礼したとき、この地で乳母と出逢ったので、逢坂と名付けたと伝えられる。



㉗ 旧山陽道

この道は、かつての山陽道で、往来も多かったが、崩れやすかったため、千林尼が托鉢で寄附を集めて、石畳を敷いた。現在、わずかに残っており、地元で大切に守られている。また、観音堂前から厚狭に向けて旧山陽道が残っている。